



# 第63期 株主通信

上半期のご報告  
2019.4.1 ▶ 2019.9.30

## ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、ここに当社グループの第63期上半期(2019年4月1日から2019年9月30日まで)の事業の概況と決算についてご報告申し上げます。

## 第63期 上半期ダイジェスト

本年の物流業界では、トラックドライバーの人手不足による車両不足、輸送コストや人件費の上昇、EC市場の拡大による貨物の小口化に伴う輸配送効率の悪化など、事業環境は引き続き厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当上半期におきましては、中長期事業大方針「幹線輸送プラットフォームの確立」に向けて、さまざまな輸送モード、輸送量への対応、新たな分野への挑戦により、輸送バリエーションの拡充を図ってまいりました。

物流情報サービス事業は、元号の変更、大型連休、消費税増税前の駆け込みなどによる環境変化がある中、新規出店によるカバーエリアの拡充、既存センターでの中ロット貨物の取扱い強化、自動車部品の幹線輸送事業の拡大を進めました。ロジスティクスマネジメント事業においては、既存主要拠点の料金適正化に加え、新しい物流分野やインダストリアルサポート事業とのシナジーによる新規業務獲得、稼働に向けて取り組みをしてまいりました。インダストリアルサポート事業は、全取引契約の見直しによる交渉や不採算取引の整理に加え、既存顧客の別工場への営業を強化してまいりました。

また、ASEAN地区での展開を視野に、シンガポールでビルクリーニング事業を行う企業の株式取得を進め、新たなサービスの提供に向け取り組んでまいりました。

以上の結果、上半期における連結業績は、売上高802億円(前期比9.4%増)、営業利益36億円(同23.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益23億円(同18.0%増)となりました。

代表取締役会長

清水正久

代表取締役 社長執行役員

恒川穰



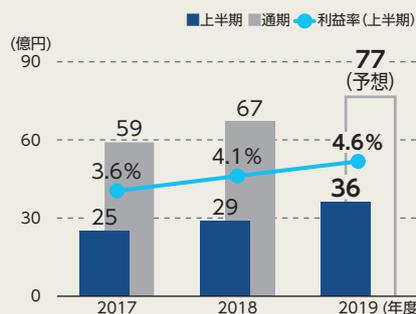
### 売上高

802億円 前期比9.4%増



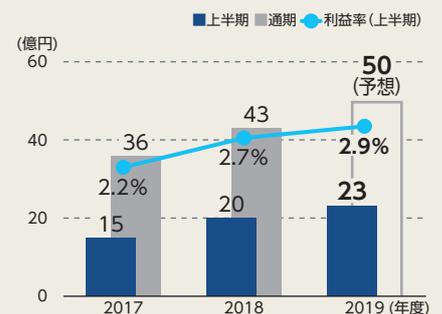
### 営業利益

36億円 前期比23.1%増



### 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益

23億円 前期比18.0%増



## セグメント別概況

### ロジスティクスマネジメント事業

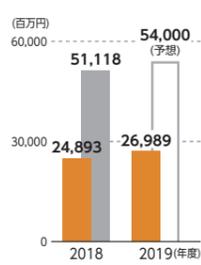
サプライチェーン全体の課題を分析・理解し、最適な解決策でトータルにサポート

売上高 **26,989**百万円 前期比 **8.4%**増  
 営業利益 **1,673**百万円 前期比 **25.5%**増

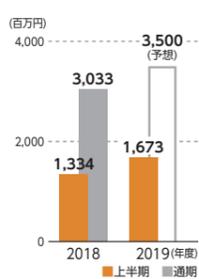


●新規拠点稼働に伴う初期費用の計上はあったものの、前期稼働拠点の業務の安定化に加え、既存拠点の物量増、料金適正化などによる収益性改善により、増収増益

#### 売上高



#### 営業利益



### 物流情報サービス事業

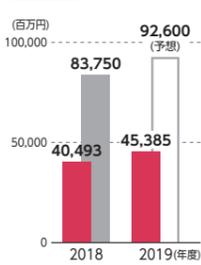
約13,000社のネットワークを活用し、空車情報と貨物情報をマッチング

売上高 **45,385**百万円 前期比 **12.1%**増  
 営業利益 **1,606**百万円 前期比 **5.0%**増

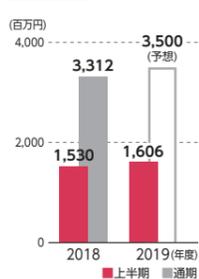


●情報センターの新規出店による全国38拠点へとカバーエリアの拡充  
 ●既存センターでの中ロット貨物の取扱い強化  
 ●成約件数の増加、運賃単価の上昇に加えて、自動車部品の幹線輸送業務の拡大により増収増益

#### 売上高



#### 営業利益



### インダストリアルサポート事業

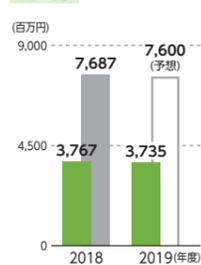
生産業務を請け負い、徹底した生産管理・品質管理を実施し、スムーズな運営をサポート

売上高 **3,735**百万円 前期比 **0.9%**減  
 営業利益 **178**百万円 前期比 **—**

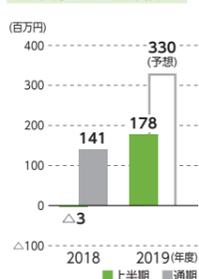


●不採算取引の解消を含む全取引契約の見直しと料金の適正化、募集費を中心としたコスト管理徹底など、粗利率改善に向けた取り組みにより大幅増益

#### 売上高



#### 営業利益又は営業損失



### その他

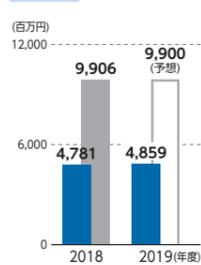
海外事業、情報システムの設計開発業務及び車両整備業務

売上高 **4,859**百万円 前期比 **1.6%**増  
 営業利益 **262**百万円 前期比 **46.5%**増

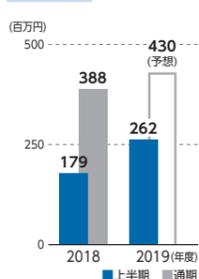


●海外拠点における為替の変動はあったものの、国内でのシステム部門、車両整備部門の売上高の増加に伴い、増収増益

#### 売上高



#### 営業利益

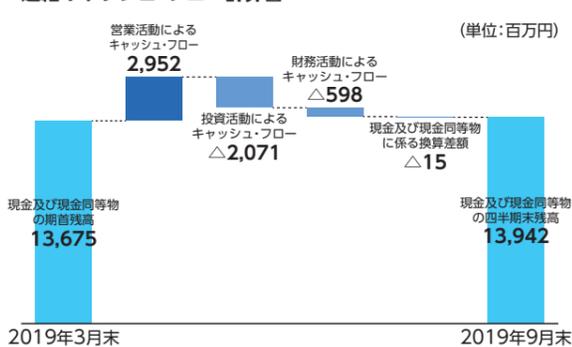


## 連結財務データ

### 総資産・純資産・自己資本比率



### 連結キャッシュ・フロー計算書



## Topics

### 自動車部品の幹線輸送事業の拡大

海外・中国にて行っている自動車部品輸送事業を日本国内でも開始し、順調に事業の拡大を図ってまいりました。現在は自社・協力会社合わせて約90台のトレーラー・大型車両輸送を担っております。

今後は、自動車部品輸送事業を開始して培った輸送品質とノウハウを他事業に展開できるよう取り組んでまいります。



### シンガポールのビルクリーニング会社を連結子会社化

シンガポールでビルクリーニング事業を手掛けるSergent Service Pte Ltd (以下SS社)の株式を取得し、連結子会社化いたしました。SS社は、チャンギ国際空港、大型商業施設などを顧客にもち、品質の高いサービスを提供しております。

海外拠点は、タイ王国・中国に次いで3拠点目となります。今後、アセアン地区のハブであるシンガポールを拠点にアセアン地区での更なる事業拡大に取り組んでまいります。

設立	1998年5月14日
資本金	1.6億円
持株比率	90%
従業員数	530名



## 取り組みのご紹介：輸送の多様化への対応

### 1 貨物情報と空車情報をマッチングする「求貨求車」

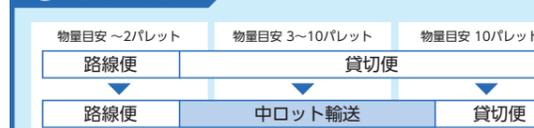
貨物を「運びたい」輸送企業様の空車情報と、「運んでほしい」荷主企業様の貨物情報をマッチングさせる「求貨求車サービス」を提供しています。トランコムでは、圧倒的な情報数とネットワーク、アジャスターと呼ばれる営業スタッフを介することで、システム上ではできないきめ細やかなサービスを提供することが可能です。当上半期には、新たに情報センター2拠点を開設し、全国38拠点に情報センターを配置しております。定期的な輸送から波動対応まで、全国主要都市に広がるネットワーク・豊富な情報量により全国の最適輸送ネットワークを提供しています。

### 1 チャーター輸送サービス

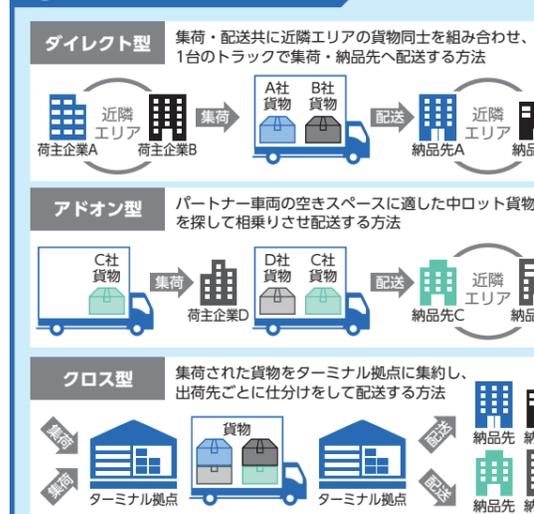
#### 荷主企業様へ貸切車両を提供する輸送方法



### 2 対応貨物量



### 3 中ロット輸送サービス



輸送方法は、年々多様化しております。従来は、荷主企業様へ「トラック1台単位」で貸切車両を提供するチャーター輸送サービス(左記①)が一般的でした。チャーター輸送の特徴としては、荷主企業1社の貸切便となるため、企業ごとの多種多様なニーズ・傾向に合わせた輸送コントロールが実現可能です。しかし、近年ではネット通販の急増による貨物の小口化・多品種化によりトラックの積載率は低下傾向にあります。チャーター輸送の場合、荷主企業は低積載率でも満載時の料金を支払わなくてはならないため物量に応じた単価設定ができない、輸送企業にとっては空スペースができて積載効率が悪化する等の課題があります。

### トランコムが展開する中ロット輸送サービス

中ロット輸送サービスとは、トラック1台に満たない複数荷主の貨物を積み合わせて輸送するサービスです。中ロット輸送サービスの利用により、荷主企業はこれまで低積載率でもチャーター便を利用するしかなかった中ロット貨物(左記②)に対して、物量に応じた料金設定によりコスト低減をすること、輸送企業には積載効率の向上による収入のアップをご提供することが可能となりました。トランコムでは、3種類(左記③)の輸送モードをご用意しております。物量・サイズ・重量・スペースなど様々な条件に最適な輸送モードをアジャスターが選択をしてお提供しています。これまではダイレクト型、アドオン型をメインに展開してまいりましたが、更なるサービスの拡充に向け、クロス型でのインフラ構築に取り組んでおります。ダイレクト型では、400km以上の長距離エリアへの輸送は拘束時間が長くなることから輸送企業が増えにくいという課題を抱えていました。一方、クロス型ではターミナル拠点と呼ばれる中継地点に一度貨物を集約、仕分けをしてそこから再度配送するため、拘束時間の削減にも繋がります。複数ある輸送モード、それぞれの強みを合わせることで更なるサービス拡大が可能になりました。当上半期は、既存の中ロット情報センターだけでなく、チャーター情報センターでの中ロット取扱いを強化し、物流情報サービス事業全体でサービスの拡充を図ってまいりました。様々な輸送課題の解決に繋がる中ロット輸送サービスをさらに拡大できるよう引き続き取り組んでまいります。

## 株主還元 —19期連続の増配を予想

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要施策として位置付けております。

今後、更なる成長のための積極的な投資も検討しながら、安定的な配当の維持と業績に沿った適正な利益配分の継続を実施してまいります。

当期の中間配当金につきましては、上期実績及び通期連結業績予想の修正を勘案し、1株当たり中間配当金を前回予想と比べて、3円増配し、52円としました。期末配当金予想につきましても1株当たり3円増配し、52円としました。これにより、年間配当金は、前回予想に比べ1株当たり6円増配し、104円を予定しております。



## 株式情報 (2019年9月30日現在)

### 株式の状況

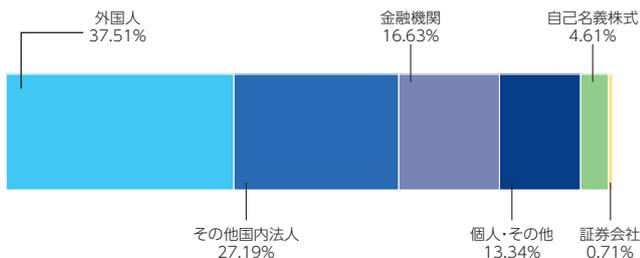
発行可能株式総数 . . . . . 40,000,000株  
 発行済株式総数 . . . . . 10,324,150株  
 株 主 数 . . . . . 3,186名

### 大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
ラネット株式会社	2,694	27.4
ピーピーエイチ フォーフィデリティ ロー プライズストック ファンド (プリンシパル オール セクター サポートフォリオ)	777	7.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	648	6.6
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE-HCR00	344	3.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	316	3.2
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505224	309	3.1
GOVERNMENT OF NORWAY	306	3.1
MSCO CUSTOMER SECURITIES	255	2.6
ピーピーエイチ ルクス フィデリティ ファンズ パシフィック ファンド	179	1.8
ピーピーエイチ フィデリティ グループ トラスト ベネフィット プリンシパル オール セクター サポートフォリオ	130	1.3

(注) 上記のほか、当社は自己株式476千株を保有しており、持株比率の算定においては、自己株式を除いて算出しております。

### 所有者別株式分布



## 株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

期末配当金受領株主 確定日 3月31日

中間配当金受領株主 確定日 9月30日

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人 特別口座管理機関  
 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

同 連 絡 先 〒168-8507  
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 TEL 0120-288-324 (通話無料)  
 (ご利用時間 9:00～17:00 土・日・休日を除く)

上場証券取引所 東京証券取引所、名古屋証券取引所

公 告 の 方 法 電子公告により行います。  
 公告掲載URL  
<https://www.trancom.co.jp>

※ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。

## ホームページのご案内

トランコム

検索



[www.trancom.co.jp](http://www.trancom.co.jp)



[www.trancom.co.jp/ir](http://www.trancom.co.jp/ir)

当社のホームページでは会社概要・事業内容・財務情報などの最新情報や詳細情報をご参照いただけます。

## トランコム株式会社

〒461-0004 愛知県名古屋市中区葵1-19-30  
 マザックアートプラザ15F  
 TEL:052-939-2011 (代表)

